

「(チュラーロンコーン大学サマースクール) 参加報告書」

京都大学農学部・資源生物科学科3年 (久保田秀人)

- ① 学習成果についてはタイ語の勉強が挙げられます。一度別のプログラムでタイの各地方に訪問して現地の勉強をしたこともあり、タイには特別に興味がありました。そのためプログラムの参加前からタイにある某大学での留学を予定していましたが、特にそのために必要なタイ語の勉強に対してあまり身が入りませんでした。しかし今回のプログラムに参加したことで、初歩的なタイ語を勉強する機会ができ、これからタイ語を勉強していく上での土台を築くことができた様に感じています。
- ② 海外での経験については異文化交流が挙げられます。前回の別のプログラムでは、タイの近年の情勢を学びました。その際にタイの地方の都市を訪れたりするなど、マクロな面でタイを知ることができました。それに対して、今回の海外研修ではバンコクのみ滞在でした。しかしタイの日本語専攻の学生との共同グループワークなど、前回の訪問ではあまり得られなかった文化の異なる人々との交流ができました。こうした異文化の人との交流はこれからのグローバル社会にむけて、非常に有意義な経験となると感じています。
- ③ このプログラムでは初歩的なタイ語の学習、タイの学生とのグループワーク、タイの文化学習を想定していたものですが、どの一つをとっても有益な勉強になったと考えています。僕にとってタイ語学習は最初に述べたとおり、これからのタイへの留学のための準備に役立ちます。またタイの学生とのグループワークが課せられていたことで、ワークがない場合よりも、タイの学生と交流する機会が多くなり、より深い関係を気づくことができたのではないかと考えています。そしてその交流の中で座学では得ることができないタイムリーな文化を学ぶことができました。会話の中で、小さな文化の違いのためにお互い不愉快な思いをしたことが何度かありましたが、そうした経験も含め、とても充実したプログラム内容でした。
- ④ このプログラムを通して大きく進路が変更したことは特にありません。もともとタイに興味があり、留学を希望していたこともあるので、よりいっそうにタイのことが好きになり、留学への熱意が大きくなったということは確かです。